

五小の風景

No. 2

五日市小学校長 國政 直文

子どもへのことばかけ～こんなことば言ってませんか？～

前回の「五小の風景」で子どもたちの「自立」につながる取組を学校で行っていきと書きました。そのために、学校では様々な取組を行っていきませんが、その中でも子どもたちへのことばかけには、配慮をしないといけないと考えています。ことばかけ一つで、子どもたちのやる気や自己肯定感を高めることもできるし、逆にやる気を喪失させたり、自己肯定感をなくさせてしまうことにもつながります。そういった意味で、私たち教職員は、常に意識しておかなくてはならないことです。

同時に、ご家庭におかれましても、わが子だからという思いから、心無いことばかけをしてしまうと、一生その子の心に傷をつけてしまうこともあります。ついついわが子のことになると、言わないでもいいことを言ってしまうたり、言い過ぎてしまったりすることがあります。私自身も自分のことを振り返った時、子育て当時、わが子の心を傷つけるようなことばをつい吐いてしまっていたなと反省しています。子どもが大きくなった今、わが子に言われます。当時の私自身のあの言葉で自分はひどく傷ついたと。

そこで、子育て真っ最中の保護者の皆様に少しでも参考になればと思い、「子どもが嫌う親のことばワースト10」(大阪大学大学院 三宮真知子教授より)を紹介します。

- (1)「あんたなんか、生まれてこなきゃよかったのに」(存在価値の否定)
たとえ冗談でも言うてはいけません。親と子の気持ちを断ち切るばかりか、子どもに生きる価値を否定させてしまいます。
- (2)「あんたって、本当にだめね」(人権否定)
「自分はだめな子なんだ」と思い込んでしまった子が、がんばれるはずがありません。
- (3)「がんばったって、どうせ無理よ」(有能感の否定)
「自分にもできるんだ」という有能感の芽をつみとってしまうと、子どもは努力しなくなり、「どうせ、できないよ」と開き直すことを覚えます。
- (4)「あんたなんか、だいつ嫌いよ」(愛情の否定)
子どもの心には、親の愛情剥奪への不安がありますから、真に受けてしまいやすいのです。
- (5)「あんたの世話で、お母さん、好きなこともできないのよ」(養育への不満)
このことばは、子どもに罪悪感を与えますが、ひどいいいばかりです。
- (6)「だれのおかげで、ここまで大きくしてもらったと思ってるの」(親の恩着せ)
幼いうちは納得するかもしれませんが、ある年になると、必ず大きな反発や軽蔑となって表れるでしょう。親への感謝の気持ちから遠ざけることばです。
- (7)「あなたをどうにでもできるのよ、親なんだから」(親の権威のふりかざし)
これは、ことばの暴力です。ある年齢になると、いたずらに反抗心をあおる結果に終わるでしょう。
- (8)「うるさいわね、いちいち話しかけないで」(関わりの拒否)
冷たさがにじむ出ることばです。しょっちゅうこんなことを言っていると、親に何も言わなくなります。親への関与をきわめて薄くすることになります。
- (9)「いいわけなんか、聞きたくないわ」(言い分の押し込み)
「だって・・・」と言おうとしたときに思わず口をつくことばですが、よくありません。言い分をとりあえず聞いてあげましょう。でないと、子どもの側に不満が残り、叱られたことに納得しません。
- (10)「となりの〇〇ちゃん是可以するのに、あんたはできないのね」(他の子どもとの比較)
私たちのほとんどが人と比較されるのはいやだと思っています。なぜ、これがいやなのかは説明するまでもないですね。



子どもへのことばかけには、お互い気をつけていきましょう。つい言ってしまった時は、素直に言い過ぎたことを子どもに謝りましょう。

